

悪性肝門部胆管閉塞における Inside stent と金属ステントを用いた胆道ドレナージの治療効果

1. 研究の対象

2020年4月～2021年6月に当院で切除不能悪性肝門部胆管閉塞に対して診断治療を受けた方

2. 研究目的・方法

切除ができないがんによる胆管閉塞で肝門部の胆汁の流れが障害されている場合、胆道ドレナージという方法で胆汁を誘導・排出させます。胆道ドレナージにはプラスチックステントと、金属ステントが用いられます。プラスチックステントの留置方法には、従来型と胆管内へ留置するインサイドステントの2種類があり、後者で開存期間が延長することが報告されています。また、従来型のプラスチックステントと金属ステントを用いた胆道ドレナージでは、金属ステントで開存期間が長いことが知られています。しかし、インサイドステントと金属ステントを比較した時の治療効果やステントの開存期間に関しては十分分かっていません。今回の研究の目的は、切除ができないがんによる胆管閉塞で肝門部の胆汁の流れが障害されている切除不能悪性肝門部胆管閉塞の患者さんに、インサイドステントと金属ステントを用いた胆道ドレナージの成績を過去の電子カルテの情報を元に比較し、いずれのステントがどのような状況においてメリットがあるかを検証することです。

研究期間は病院長許可日から2023年3月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、カルテ番号、内視鏡治療歴、抗がん剤治療歴 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

磐田市立総合病院 消化器内科 金子淳一（0538-38-5000）